

資料文献コーナー

「安倍晋三」大研究

(望月衣塑子&特別取材班著)

KK ベストセラーズ

運営委員 針谷 正紀



東京新聞記者望月衣塑子

東京新聞望月衣塑子記者の著作は「新聞記者」(角川新書)・「安倍政治 100 のファクトチェック」(集英社新書)・「追求力」(光文社新書)を読んできたが、戦後最低・最悪の総理大臣と私が考える安倍晋三を総合的(漫画・時事ネタ・事件記事・インタビュー・対談)に捉え分析した彼女のこの著作はとても新鮮で説得力があった。

第2章「最強首相・安倍晋三を考える」

誕生から第1次安倍内閣辞任までを描いた第1章「まんが・安倍晋三物語」(原作・佐々木芳郎 画・ぼうごなつこ)では幼少期・少年期に形成された彼の虚言癖と内面のコンプレックスが周辺の証言によって興味深く描かれている。

私が最も印象に残った第2章「最強首相・安倍晋三を考える」に焦点を当て安倍首相の実像に迫ってみたい。

I 安倍話法

(1) ご飯論法

安倍首相や彼に付随する大臣・官僚が使う論点をずらす。上西充子(法政大教授)が下記のようなやりとりを「ご飯論法」と命名。

Q「朝ご飯は食べなかったのですか?」

A「ご飯は食べませんでした(パンは食べましたが、それは黙っている)」

Q「何も食べなかったのですね?」

A「何も、と聞かれましても、どこまでを食事

の範囲に入れるかは、必ずしも明確ではありませんので……」

(2) 質問の主旨を曖昧にして煙に巻く方法

TBS「NEWS 23」で星浩キャスターから親友加計孝太郎理事長によるゴルフや会食の接待を頻繁に受けたことの是非を問われて、「ゴルフに偏見をもっておられると思います。ゴルフは駄目でテニスはいいのか」と持論を展開し、星氏の「友人であっても利害関係者との飲食やゴルフなどの交流を持つこと自体を慎むべきではないか」の追及の論点を曖昧にし、すり替えを平気で行う。

(3) 根拠なき事実ほど強調して言い切る

2007年参議院選挙の政見放送で、消えた年金問題について、「最後のお一人に至るまで記録をチェックして真面目に保険料を払ってこられた方々にしっかりと年金を正しくお支払いしていく」と公約しながら国会での質問に「私の時に発生したのじゃない」と無責任に逃げてしまう。

(4) 「一度も～ない」の全否定で疑いを晴らす

自民党が下野していたときの選挙ポスター「ウソをつかない。TPP 断固反対。TPP への交渉参加に反対」に関する国会の質疑応答で「根っこから反対したことはない」「党として作ったことはない。一選挙区のポスターであろう」と過去の TPP 反対主張をなかったことにし、「全否定」する話法を活用する。

(5) YES (はい) NO (いいえ) で答えない

YESかNOか二者択一の質疑に対しては、「YES」とも「NO」とも答えず直接関係ないことを長々と答え、相手をうんざりさせる。だから答弁の中で「いわば」「そこで」「まさに」「つまり」を多用し、同じ意味を繰り返したり、別の表現に言い換え、同じ意味を別の表現にしてはぐらかす語法を得意とする。

(6) 「印象操作」は時間稼ぎのテクニック

安倍首相は、国会での対立相手の野党議員から森友・加計問題などを追及されると興奮して「印象操作だ」「レッテル貼りだ」と言って正面から疑問に答えず、時間稼ぎをしながら野党を批判するテクニックを多用する。

(7) 質問に誠実に答えず「はぐらかす答弁」

安倍首相の答弁は、相手が知りたいことに誠実に答えようとせず、「はぐらかすこと」を特徴とする。この特徴は、安倍官邸や霞ヶ関にも及んでいる。

II 安倍史観

(1) 「戦後レジームからの脱却」を謳う安倍首相の歴史認識

安倍首相の歴史観について彼の母校成蹊大学の恩師加藤節名誉教授は、「戦後日本が築いてきた歴史を踏まえていない……安倍首相を表現するのは『無知』と『無恥』」と厳しい評価を示している。

①憲法改正を提唱しながら戦後レジームの起点ともいえる13条からなるポツダム宣言を安倍首相は、つまびらかに読んでいないと明言。

②「日本の戦争は善か悪か」を問われて答えられなかった安倍首相

③原爆投下の「後？」で叩きつけられたポツダム宣言という歴史の時系列の完全誤認 (Voice2005年7月号)

(2) 自衛隊と核戦術に関する安倍首相の認識

①自衛隊を認める以上、法整備すべきだ→自衛隊を憲法9条書き込む提案

②核兵器の使用は違憲ではないと主張

③岸信介氏の「戦術核論」を信奉

①核兵器を持たないと完結した国家になりえないとの信念

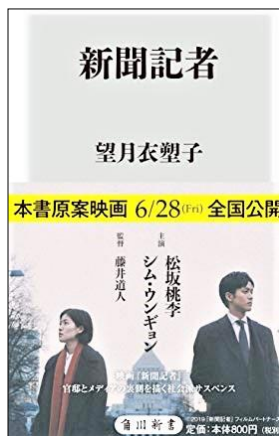
第3章安倍晋三はなぜ嘘をつくのか？

民主主義と安倍政権：思想家・内田樹に訊く「安倍晋三はなぜ嘘をつくのか？」と題する望月記者と内田樹氏の問答は読み応えがある。

望月：国会では、立憲民主党の枝野代表との論戦などで、安倍首相は独特の「信号無視話法」「ご飯論法」を繰り出しています。政府答弁は、決して言質を取られないようはぐらかすのは歴代政権の常套手段ですが、それにしても近年の安倍首相の発言は、ひどすぎるように思います。

内田：反対者と対話する能力がないというのは深刻なことだと思います。それって「挨拶ができない」ということと同じですから。挨拶ができてからしか実のある対話は始まらない。そんなこと社会人としての常識じゃないですか。でも、安倍首相は国会の質問の時に「せせらわらい」をしていますよね。あれは本当にいけない

と思う。冷笑というのは対話も交渉も端からやる気がないことの意味表示ですから。



映画「新聞記者」(望月衣塑子原案)もぜひ鑑賞をお薦めしたい。